



参画だより

No.44

2011. 7. 31

弘前市民参画センター

PICK UP!

男女共同参画の視点で読む
世界の格言・名言

生きるとは
呼吸することではない。
行動することだ。

ルソー



弘前市民参画センター事業紹介「さんかくネット子育てサポーター研修会」ほか P 2・3

まなぼ「暮らしの中にある男女共同参画」第1回 P 4

おとこの気持ち聞いちゃいました

「岩木山は目に入らないけれど桜には目をみはった」 P 5

さんかくひとりごと「あるグループの集まりから…女性の生き方は？」 P 5

男女・団体紹介「音楽ボランティア協会・赤とんぼ」 P 6

利用者・利用団体紹介「前川國男の建物を大切にする会」ほか P 7

本の紹介「なみだ」 P 8

センターからのお知らせ P 8



さんかくネット子育てサポーター研修会

6月9日、「さんかくネット子育てサポーター研修会」を市民参画センターで開催しました。

弘前市の子育てサポートシステム「さんかくネット」では、市内に住む子育て中の家族の支援のため、保護者からの依頼に応じて、登録している子育てサポーターを紹介し、有償で子どもの一時預かりや出張保育などに対応しています。

今回の研修会は子育てサポーターのスキルアップと市内の保育施設関係者への情報提供を目的に実施し、約30名が参加しました。

研修会では、まず弘前消防署の一町田卓さんが「地震時の対処法」と題して講演し、乳幼児と一緒に



地震時の対処法を説明する一町田さん



弘前市の防災訓練について質問する子育てサポーター

いるときに地震が発生した場合の対応や日頃の備えについて説明しました。

一町田さんは、地震が起きたらタオルやクッションで自分と子どもの頭部を守ること、避難する際には必ずガスの元栓を閉め、ブレーカーを落とすこと、水や着替え、救急用品などの避難グッズを備えておくことなどのポイントを紹介しました。また、「訓練でできないことは本番でもできないと思うので、地域で行われる防災訓練には積極的に参加して、防災知識を身につけてほしい」と訓練への参加を呼びかけました。

参加者は、防災訓練への参加方

法について一町田さんに質問したり、3月に起きた震災での体験から子どもを預かる際に準備した方がよいものを確認し合うなど、防災に対する関心の高さがうかがわれました。

一町田さんに続き、城東こどもクリニック看護師の赤平幸子さんが「あまえと子育て」をテーマに講演を行い、「甘え」と「甘やかし」の違いや、子どもとの信頼関係の築き方について参加者にアドバイスしました。

赤平さんは、「子どもは1歳程度までに、後々対人関係の基礎となる『心の根幹』がつくられる。それまでに『何があってもお父さんお母さんは自分を守ってくれる



講師の話を真剣な表情で聞く研修会出席者

存在』だという信頼感を持たせることが大切」と述べ、抱っこしたり優しく話しかけて安心感を与えることが効果的と話しました。

さらに、「甘え」と「甘やかし」の違いについて、「一緒に遊びを楽しんだり、スキンシップを受け入れるのは健全な甘え。欲しがる物を買う与えることで子どもを操ろうとするのは甘やかし。子どもを操っているように見えて実は子どもに操られている」と説明し、甘やかしでは根本的な信頼関係は構築されないと指摘しました。

「子ども時代に親に甘えた経験が少ない親は、自分の子どもに甘えさせることが苦手で、不安になる場合もある。そのような親子関係を理解し、自信を持たせるような支援を心がけてほしい」という赤平さんの話に、参加者は熱心に聴き入っていました。



「甘え」と「甘やかし」について話す赤平さん



6月に行った応募説明会の様子

弘前市では今年度から、個人市民税の1%相当額（約6000万円）を財源に、市民自らが企画・実践する地域活動に対して必要経費を助成する「市民参加型まちづくり1%システム」を創設し、6月から事業の募集がスタートしました。

この制度は、地域の実情に身近な市民が実践する、地域の課題解決や活性化につながる活動を支援することにより魅力あるまちづくりを推進するものです。

助成の対象となる事業は、地域の課題解決や活性化を目的に実施する公益性のある事業で、平成23年8月1日から24年3月31日まで原則として市内で実施され、継

「市民参加型まちづくり1%システム」提案事業募集スタート

続可能なものなどの要件を満たしている必要があります。営利・宗教・政治を目的とする事業や、国・県から補助金を受けている事業は対象となりません。

対象団体の要件は構成員が5人以上で、主に市内を活動拠点としていること、組織の規約・会則があることなどです。

応募された事業は公募市民などで構成される「まちづくり1%システム審査委員会」で書類やヒアリングによって審査し、採択の可否や補助金の額を決定します。補助金の額は、対象経費の90%以内（原則50万円を限度）です。

今後の事業の募集は8月に2次募集（事業実施期間：10月1日～平成24年3月31日）、10月に3次募集（事業実施期間：12月1日～平成24年3月31日）を予定しています。

事業についての問い合わせや申請は市民との協働推進室（市民参画センター内）で受け付けています。
電話 0172・31・2500

ボランティア支援センター被災地訪問レポート

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、各地に大きな被害をもたらしました。ここでは、被災した岩手県大槌町を4月に訪れた弘前市ボランティア支援センター職員のレポートをご紹介します。

「地震直後は『自分の命が助かって良かった』と泣いて喜び、次に近くにいた人と『助かって良かったね』と泣いて喜び合った。その後で友人知人の多くの死を知らされたのに涙が出てこない。いまだに信じられない」。避難所でお会いした女性が、そうお話しく下さいました。被災しながらも、まだ現実として受け入れることができずにいるようでした。大きな悲しみや苦しみを抱えた被災者を前にして、私にはかける言葉がありませんでした。

また、「寒い」「毛布が欲しい」と訴える声に、どれだけの人か毛布を送りたいと思った

でしょうか？ 個人からの物資を受け付けていないことを知って、どれだけの人かやきもきしたのでしょうか？ 思いがあっても何もできないこともあります。何もできずにいる自分を責めないでほしい…生かされている自分の命を大切に、生きられなかった人の時間を大事に過ごし、相手を思いやり、「一緒にがんばりましょう！」と願うだけでも充分です。被災者支援は始まったばかりです。これから先の長い活動になります。継続することが最も大切な支援ではないでしょうか？

（弘前市ボランティア支援センター 小田切宰子）



浸水した大槌町の幼稚園で清掃作業

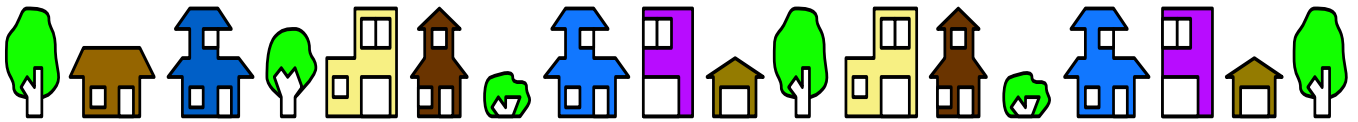
まなぼ

「暮らしの中にある男女共同参画」第1回

NP0法人 青森県男女共同参画研究所

(平成23年度担当)

県内で広く活動する会員のネットワークを活かし行政や企業、団体そして地域の皆さんとパートナーシップをとりながら青森県における男女共同参画社会の実現をめざして活動しているグループです。



定年後の夫のネーミングの変遷から考える 「粗大ゴミから濡れ落ち葉・・・」

2007年から団塊世代の夫たちの定年退職が本格的に始まり、定年後の夫たちの生き方が大きな関心事になっていますが、すでに1980年代に定年後の夫に対する様々なネーミングで社会的に大きな関心と呼んできました。

定年後、何もしないで家庭にいるようになった男性に対して、1981年には樋口恵子さんが取り上げて流行語となった「粗大ごみ」。1984年には「産業廃棄物」が登場しました。その後、家にいて妻にまわりついて離れない夫の様子をこれまた樋口さんが「濡れ落ち葉」と表現し、この言葉は1989年の新語・流行語大賞の新語部門で表現賞を受賞しました。また、1990年代には、さまざまな地域活動などに出かける妻に「ワシも」とついて歩く夫の様子から「(恐怖の)ワシ男」という異名も出現しました。

ネーミングだけではありません。熟年離婚や主人在宅ストレス症候群（夫が家にいると妻はストレス症候群という病気になる）など、定年後の夫に対する妻からの拒否的態度に注目が集まりがちですが、その背後には、定年後の生き方に対する夫たちの独りよがりな思いや家庭・地域のことを妻任せにしてきた安易な態度があることも見落としてはなりません。

2010年12月に策定された国の「第3次男女共同参画基本計画」では、「男女共同参画の理解に向けた男性に対する積極的な働きかけが必要である」として新しい重点目標「男性、子どもにとっての男女共同参画」を設けました。

男女共同参画社会の形成は女性だけの問題ではなく男性にとっても重要であり、男性も暮らしやすくなるものであることの理解をすすめ、男性自身が、妻や家庭・地域での生活の中で、互いの思いや願いを理解し支え合っていくために自分は何をすべきか、何ができるのかについて考え実行していくことによって、男性自身が充実した高齢期を迎えたいものです。

資料：米川明彦「明治・大正・昭和の新語・流行語辞典」



Q. お話していて弘前育ちではないような気がしましたが、どうして住むようになったのですか？

A. 長野県生まれです。大学が弘前なことと、雪が好きな事かな。(長野でも静岡県寄りなので雪に縁がなかったのだ)

Q. 弘前でのお気に入りとは？

A. 桜と禅林街、身近では城東の長四郎公園ですね。周りが土手のようになっていて町中でピクニック気分でゆっくり桜が見られるのがいいです。

Q. 男女共同参画という言葉を知っていますか？

A. 聞いた事があります。でも説明するほど深くは知りません。

Q. 仕事のストレスは何で解消して、バランスをとっていますか？

A. 子どもと、一緒に遊ぶことです。昔バスケットをしていたので動くことは好きです。我が家のすぐ近くに児童公園があり息子の友達とも遊びます。

Q. 弘前の女性気質ってありますか、また他と何処が違いますか？

A. バイタリティがあります。そして我慢強いです。自分の母親とは違いますね。

おとこの気持ち
聞いてみました



30代・会社員・既婚

インタビューを終えて

～岩木山は目に入らないけれど
桜には目をみはった～

山の好きな私は、岩木山の話をしたが『山はいつも見ていたから何も感じない』のことははっきり言う、冷静、妥協しない若者を見た。近頃は摩擦を避け円く収める事を使っている自分…考えさせられました。梅



あるグループの集まりから…女性の生き方は？



グループの一人がテレビを見ていた時、「結婚したら仕事を辞めて欲しい。」と言われた女性が、「女性は男性と同じように仕事に夢をもってはいけないの？」と話していたのが印象に残ったとのこと。

- ・共働きの夫婦が増えたのに、家事、育児は依然として女性の仕事って感じだね。
- ・男性はもちろん、女性も家事・育児は女の仕事と思いこんでいないかな？
- ・男性は当たり前のように仕事に専念できるのに、女性は両立を迫られるのよね。
- ・まだ結婚前だし、もっと話し合って自分がどうしたいかを決めなきゃ。
- ・女性が責任ある立場で仕事ができる場はまだまだ少ないから…
- ・結婚が女性の逃げ場になっているということはない？

などなど話し合いは続いた…

女性の生き方にはたくさんの選択肢がある。もちろん男性にもいえることだが…結婚する、しないという選択。子供を産む、産まないという選択。仕事を続けるという選択。主婦を専業する選択。などなど…でも、自分の気持ちに折り合いをつけないまま決めてしまうと後が辛いのでは？男性にもたくさんの選択肢が生まれて欲しい。

というところで、この日はお開きに…



さんかくひとりごと

大震災の後、結婚したカップルが急増したとの報道があった。「大震災を経験して、信頼できる人と一緒に生きたいと思うようになった。」と言いきる女性が誇らしく映った。女性の多様な生き方を応援したい。



生命の賛歌を共に歌って10年

90ヶ所の福祉施設等を訪問して、

「音楽ボランティア協会・赤とんぼ」

相澤保正さん



◆活動の起点「音楽・癒し」

つぎの随想は「音楽と癒し」と題して私が「月刊弘前（二〇〇一年十一月号）」に寄せたものです。

過日、ある新聞の読者欄が目にとまりました。投稿者は67歳の女性の方でしたが、夫の入院が半年以上にもなつて、一人で付き添っていたその方も倒れる寸前だった、とのことでした。

深夜まで眠れない眠れないと苦しむ夫に、疲れ果てて何もできなくなつてしまったその方は、ふと、「雪の降る街を」から始まつて、唱歌や子守唄を意識がもうろうとした状態のまま歌い続けたそうです。すると、あれ

ほど苦しがっていた夫が、いつの間にか安らかな寝息をたて始めた、ということでした。

私はこの投稿文を読んで、音楽の持つ「癒し」の力を改めて認識しました。〈鬼追いしかの山〉、〈夕焼け小焼けで日が暮れて〉、〈夏が来れば思い出す〉と、たぶん何曲も歌い続けたことでしょう。それらの歌は病院のどんな薬よりも、ご主人に安らぎを与え、眠りへと誘つた良薬だったようです。そして、それらの歌はCDを聴くのではなく、長年つれ添つた妻が歌う歌だったから良薬になったのだと思います。こんな日々を送つたご主人は桜の花の散る頃、静かに息をひきとつた、とのことでした。

—略—

私はこの事実から、人間はいかにメンタルな生き物であるか、そして音楽の持つ「癒し」の力を改めて強く認識しました。

◆訪問を通じて

二〇〇二年の八月に「音楽ボランティア協会・赤とんぼ」を創立して、高齢者や障がい者の施設等を訪問し、今年十年目を迎えました。現在会員数は56名、配布した手づくり歌集は約六千八百冊、訪問した施設等は延べ90ヶ所に上ります。

「赤とんぼ」は入所者参加型の活動が特色のひとつで、選曲に配慮し、生命の賛歌を共に歌うことが底流にあります。内容は、歌うことを核として、音楽療法・学習療法・回想法の三者を融合した活動です。

◆男女共同での音

会員は女性が多いですが、男性も積極的に参加し、会の目的に向かつて協力し合っています。また、その歌声は男女のトーンが溶け合つて、まさに男女共同参画社会を音で表出しています。施設訪問の帰り際に入所者か



高齢者施設での活動の様子

ら、とてもよい表情で「また来てね」と声がけされることは、会員一同の大きな喜びであり、活動の意義を再認識させてくれます。

日本は世界一の長寿国となりましたが、この長寿をどのように謳歌するのか、社会体制や、一人ひとりの生き方の哲学が今、問われているように思います。

《前川國男の建物を大切にしよう》

建物と人物に惹かれて

昭和という時代を駆け抜けた建築家・前川國男は、日本に近代建築を根付かせるため、その一生を捧げた。彼の人生は本物の建築を求める戦いの日々でもあった。その前川の手がけた建築が弘前には8棟現存している。昭和7年に建てられた最初の作品、木村産業研究所から弘前市斎場まで。

ある人がおもしろいことを言った。「ゆりかごから墓場まで」という表現があるが、弘前の前川建築は市民にとってまさにその通り。弘前市立病院で生まれ、出生届を市役所に提出。



前川國男氏



左は博物館のディレクターで前川氏のお弟子さんでもある仲邑孔一さん

出。小学校から高校まで入学式、卒業式で市民会館にお世話になる。このホールでは市民がどれだけコンサートや観劇で感動や喜びを分かち合ったか知れない。中央高校へ入学した人は講堂で全校集会。少し成長して、博物館で歴史や文化に深く触れ、長い人生、定年になって盆栽いじり、講習会で松の手入れを緑の相談所で学ぶ。そして、誰もが最後は斎場のお世話になる。

弘前市民の生活と深く関わっているこれらの建物が大好きで、前川國男という巨人の人間的魅力に惹かれている人達の集まりが、「前川國男の建物を大切にしよう」のメンバーです。私を含め、建築とは無縁の市民の集まりです。

今年4月1日、初めて弘前市の助成金をいただき、在府町木村産業研究所内に、「建築家前川國男ブチ博物館」をオープンすることが出来ました。弘前の



博物館内部の様子

代表 葛西 ひろみ

貴重な文化的遺産である前川建築を確認するため、ぜひ博物館へお越しください。80年前の空間の佇まいを経験してください。無料です。

センター利用者に突撃インタビュー

60代・女性

◆当センターの利用頻度と利用目的は？

ボランティア支援センターで発行している「ふくろう通心」作成のため、ボランティアスタッフとして週1回来ています。

◆ボランティア活動について教えてください。

子どもが成長してしまってから「何かしなくちゃいけない」と思い、気になっていたボランティア活動を始めました。「ふくろう通心」以外に、お正月であれば地域の子どもたちや、お年寄りと一緒に餅つきをしたり、一人暮らしの方の誕生月に、お祝いのはがきを出したり、お盆とお正月にはマスコットを手作りして送ったりしているんです。かなりの量をつくりますよ。私自身も健康が一番ですから、元気なうちに活動してあとは若いひとに引き継げたらなと思っています。

◆お忙しいようですが、家事の分担などはされていますか？

夫は若い時自炊とかがしていたので、洗濯以外は何でも出来るみたいです。ふだんはあまりやりませんが、私が病気した時や、出かける時はやってくれます。ハンカチのアイロンがけとかも(笑)。ただし「お父さんやって」って言っちゃダメなんです。命令されると男の人は嫌がるので、そのへんは気をつけています。夫も病気がちなので、軽い仕事は出来ますが無理が利かない。雪かきなんかは私がやるし、自然に役割分担ができています。

◆今、興味があることや趣味は何ですか？

歌うことです。童謡とかも大好きですけど、今は歌謡教室に通っています。



忙しい毎日の中「元気なうちに」と精いっぱい活動し、「趣味も充実している」と穏やかに語りながら輝きを放っていた素敵なお方でした。

by M

市民参画センターからのお知らせ

★さんかくセミナー

(第2回)テーマ「男女共同参画基本計画とは」

日時：8月20日(土)13:30～15:30

(第3回)テーマ「みんなで考えよう」

(仮称)弘前市男女共同参画基本計画」

日時：9月4日(日)13:30～15:30

場所：市民参画センター

(3階グループ活動室)

講師：佐藤恵子さん

(青森県立保健大学教授)

託児：準備します(事前の申し込みが必要です)

★さんかくネット「つどいの広場」

内容：「親子で楽しもうDay」

・作ろうスクラップブック

・あれれ～不思議の実験

・展示～ママたちの作品、その他

日時：9月25日(日)10:00～13:00

場所：市民参画センター

(3階グループ活動室)

対象：子育て中の家族

★男の介護講演会・介護保険講習会

日時：8月21日(日)13:00～15:45

講師：柳谷小袁治さん

場所：弘前市総合学習センター

申込み：電話 017-777-4191

FAX 017-773-2085

問い合わせ：男の介護ビギナー応援事業事務局

★開館時間の変更

市民参画センターは、7月31日(日)～8月4日(木)の5日間、ねぷた運行による交通規制等のため、17時で閉館します。

★臨時休館

市民参画センターは8月15日(月)・16日(火)の2日間、施設点検等のため休館します。

編集後記

自然の怖さを見せつけたこの度の大震災。でも、東北人は負けていません。復興に向けて歩みだしています。震災後、当たり前前の方が当たり前前になるに感謝。

め

本の紹介

タイトル

「なみだ」

細谷 亮太 文
永井 泰子 絵
ドン・ボスコ社 刊



～「なみだ」の意味をいま一度～

「なみだ」いう題字から何とも言えないやさしさを感じそれに魅せられて手にした絵本。何冊もの本の中から語りかけられたような…。「なみだ」というと、悲しい、つらい、寂しい、暗いなどのイメージを受けがちだが、読んでみるとそれだけではない。喜び、希望につながる何かが存在するような気がした。

今年は特に3.11の大震災があり、私たちは多くの涙に接し、自らも多くの涙を流した。誰もが経験しうることで、とうてい他人ごとでは片づけられない、やりきれない思いを持て余している毎日だ。

ページをめくると、「天国へ行ってしまったあの子は私のいのちだった」というフレーズで始まる。細谷さんの文章に永井さんの淡い色彩の絵がぴったりと寄り添っていて、次はどんな文章が？どんな「なみだの絵」が？と思いながら読んだ。

細谷さんは聖路加国際病院のお医者さまで、長年にわたって小児がんや難病の子どもたちの診療や親たちのケアにあたってきた方だそうで、かねてから「僕は泣けなくなったら医師をやめます。」と話されているとのこと。だからこそ、人一倍「なみだ」の意味を理解されているのだろう。

この本には～絵本「なみだ」に寄せて～という柳田邦男さんのメッセージが入っている。その中に「新たに悲しみに直面している親や子にとっても、自分を肯定的に受け止め、生きなおす力を取り戻すきっかけになるに違いない。」と記されている。参画センターで見かけたら、ぜひ読んでいただきたい絵本である。

by komori



弘前市民参画センター

〒036-8355 弘前市大字元寺町1番地13

TEL 0172-31-2500

FAX 0172-36-1822

開館時間 9:00～22:00

休館日 12月28日～1月3日

http://www.city.hirosaki.aomori.jp/gaiyo/shisetsu/kyouiku/htm_sankaku/framepage.htm

